

みえ高校生県議会 質問と答弁の概要 (令和6年8月21日) 医療保健部関係

学校名 質問項目	質問の概要	答弁の概要	答弁者
<p>セントヨゼフ 女子学園 高等学校</p> <p>『三重県の 医師不足を 解消するに は』</p>	<p>「三重県医師確保計画」により、三重県の医師の総数は増加傾向にあるが、依然として医師不足の状況が続いており、県内の医師数の偏在も課題となっている。</p> <p>県の医師不足は、長時間労働の問題、子育て世代にとって働きやすい環境が整っていないこと、産婦人科や救急科などの特定診療科は医療訴訟に発展するリスクが高いことなどの複数の要因によって引き起こされていると考える。また、今年度から医師の時間外労働が制限され、長時間労働の問題解決は期待できるが、その反面医師不足が一層深刻化し、結果的に病院数減少の可能性が考えられる。</p> <p>人口10万人あたり医師数を比較すると、全国1位の徳島県と三重県の差は、2022年には約1.4倍に達している。この差を少なくするため地域医療に特化したカリキュラムの導入や地域医療を担う医師の育成などの大学教育の見直しなどのほかに、院内保育や復帰支援の普及や勤務時間の短縮など子育て世代や女性の医師が働きやすい環境の提供、無医地区への巡回診療や通院が困難な方への訪問診療や訪問看護、AIを活用した遠隔診療による医療アクセスの改善などの徳島県の取組例が参考になる。これらの対策を通じて、<u>医師不足を解消し、地域医療の充実を図ることが重要だと考えるがどう考えるか。</u></p>	<p>県はこれまで三重大学医学部における入学定員の拡大、地域枠の設定、「三重県医師修学資金貸与制度」の運用などの対策を講じ、研修プログラムづくりや指導医の確保・育成等、医療機関が取り組む事業や情報発信への支援をしてきたことにより、県内の医師数は着実に増えている。</p> <p>大学教育の見直しについて、「地域医療」をテーマにした講義や全29市町での教育実習、へき地・離島の医療機関での体験実習をコーディネートするなど、三重大学における教育の充実に取り組み、地域医療の担い手の育成に努めている。さらに地域枠入学者の一部について、将来医師不足が見込まれる診療科での勤務制度を設けた。また三重県地域医療研修センターでは、令和5年度までに県内外の病院から390人の若手医師を受け入れている。</p> <p>勤務環境の改善に向けては、県独自の『「女性が働きやすい医療機関」認証制度』により医療従事者が働きやすい環境づくりを促し、子育て医師等復帰支援事業を通じ、宿日直免除等就労環境改善や病院内保育所の運営を支援している。</p> <p>医療アクセスの改善について、無医地区等への毎月複数回の巡回診療を行っており、遠隔診療については市町のニーズ調査、市町毎に適したオンライン診療モデルの提示等支援している。</p> <p>三重県は依然として医師不足の状況にあり、強い関心を持ちしっかりと調査して議論を深めていきたい。</p>	<p>医療保健 子ども福祉 病院常任 委員長</p>